

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
1	○理念の具体化 サービス理念や運営方針は、家庭的な環境の中で、利用者の能力や尊厳を尊重したケアを行うなど、グループホームの特徴を生かしたものになっている。		○		
2	○理念の共有と実現 すべての職員が、ホームの理念にもとづき、常にその実現に取り組んでいる。	○			
3	○グループホームでの生活空間づくりの工夫 入居者は、持込の家具を使用したり、入居者ご自身の作品（焼き物等）を飾ったりと家庭的な雰囲気作りをしている。入居者のできる事（例えば家事の参加や入浴前の準備など）を一般家庭と同じようにやってもらっている。作業場と呼ばれている畳のスペースでは利用者の方々の憩いの場になったり、洗濯物たたみの場となっている。また食堂兼リビングは広く、ゆったりとしており、テレビを楽しまれている。				
4	○気軽に入れる雰囲気づくり 入居者や家族が入りやすい、近隣の住民も訪ねやすいなど、玄関まわりや建物の周囲が違和感や威圧感を感じさせないつくりになっている。	○			
5	○家庭的な雰囲気づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレなど）をはじめ、調度品や設備、物品や装飾が家庭的な雰囲気になっている。	○			
6	○くつろげる場所の確保 居室以外に、自由に過ごせるような居場所がある。			○	
7	○居室の環境づくり 居室は、入居者一人ひとりの生活にあわせ、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれるなど、安心して過ごせる場所となっている。	○			
8	○入居者の身体機能の低下を補うことに配慮した環境及び生活空間づくり		○		
9	○痴呆症状に配慮した環境づくり 場所の間違いなどの混乱を防ぐための工夫がしてある。	○			
10	○落ち着いた暮らしができる快適な環境づくり 入居者が落ち着いて快適に暮らせるように、音の大きさ、光の強さ、におい、冷暖房などに配慮してある。		○		
11	○入居者に対するケアを行ううえで工夫されていること 保育園児とのふれあい（同じ社会福祉法人の保育園がすぐ近くにあり、子どもが訪れ、ホームの広い庭で走り回ったりする姿を嬉しそうに見守る入居者の方々の様子に、世代を超えた取り組みを感じる。） 園芸（広い野菜畑には今旬の野菜が青々と育っており、入居者の方々とスタッフとの共同作業のたまものだろう。）				
12	○個別・具体的な介護計画の作成 アセスメント（評価）に基づいて、入居者一人ひとりの状況に応じた具体的な介護計画を作成するとともに、その計画の内容について入居者や家族に説明している。	○			
13	○介護計画への理解と実践 すべての職員が入居者一人ひとりの介護計画を理解し、その介護計画に沿ったケアを行っている。		○		
14	○職員間での情報の共有 職員間での申し送りや情報伝達を確実にやっている。また、重要事項について、すべての職員に伝わる仕組みがある。		○		
15	○入居者一人ひとりの尊重 常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。		○		
16	○職員の穏やかな態度 職員の態度がゆったりしており、入居者への言葉かけなど、やさしい雰囲気ですべて接している。	○			

番号	項 目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
17	○入居者のペースの尊重 ホーム側の決まりや都合で業務を進めていくのではなく、入居者が自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			
18	○入居者の意志の尊重 入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にしている。	○			
19	○自立への配慮 入居者の「できること、できそうなこと」について、できるだけ手や口を出さずに、見守ったり一緒に行うようにしている。	○			
20	○身体拘束のないケアの実践 すべての職員が、身体拘束についての正しい理解のもと、身体拘束をしないケアを実践している。		○		
21	○入居者と共同した食事の支度と後かたづけ 献立づくり、買い物、調理や後かたづけなどについて入居者と共同して行う工夫をしている。		○		
22	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や、便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理をしているかどうか。また、盛り付けの工夫等を行っている。	○			
23	○家庭的雰囲気のある食事支援 職員が入居者と同じ食事を楽しみながら、食べこぼし等に対する支援・介助をさりげなく行っている。		○		
24	○一人ひとりに応じた排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立した排泄へ向けた支援を行っている。	○			
25	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導や介助、失禁などへの対応は、入居者の不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			
26	○希望に合わせた入浴の支援 入居者が自分の希望に合わせて入浴できるように支援している。			○	
27	○希望に合わせた理美容院への利用支援 入居者の希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。	○			
28	○プライドを大切にされた整容への支援 入居者のプライドを大切にしながら、容姿や着衣の乱れ、汚れ等に対してさりげなくカバーしている。		○		
29	○細やかな安眠のための支援 夜眠れない入居者には、1日の生活リズムを通じた対策を取るなど、入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、安眠できるよう支援している。	○			
30	○主体的な金銭管理に向けた支援 入居者本人が日常の金銭管理を行えるよう、入居者一人ひとりの状況に応じた支援をしている。	○			
31	○ホーム内での役割・楽しみごとの創出 入居者がホーム内での役割や楽しみごとを見い出せるよう、家事や小動物の世話など、一人ひとりに応じた出番づくりをしている。	○			
32	○口腔内の清潔保持 入居者の状況に応じて、口の中の汚れや臭いが生じないように、歯磨きや入れ歯の手入れ、うがい等への支援、出血や炎症のチェックなど、口腔の清潔を日常的に支援している。	○			
33	○身体状態の変化や異常の早期発見、対応 入居者の身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように努め、その状況を記録に残している。	○			
34	○服薬の支援 入居者の体調と使用する薬の目的や副作用、用法や用量を理解しており、入居者が医師の指示に従って服薬できるように支援している。	○			
35	○緊急時の対応体制の整備 入居者のけが、骨折、発作、のど詰まり等の緊急時に職員が応急手当を行うことができるようにしており、協力医療機関や消防、警察等とあらかじめ必要な事項を取り決め、連携体制を整えている。		○		

痴呆性高齢者グループホーム外部評価結果

グループホーム清陽

番号	項目	良くできている	できている	努力が必要	評価困難
36	○地域における入居者の生活支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、買い物や散歩、集会への参加など、積極的に地域の中で楽しめるような機会をつくっている。		○		
37	○入居者家族のホーム訪問に関する配慮 入居者の家族が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、ホームに来やすい雰囲気をつくっている。		○		
38	○入居者家族との交流支援 入居者と家族とが交流できるように、食事づくり、散歩、外出、行事など、ホームでの活動に参加する機会をつくっている。	○			
39	○事業所としての組織的取組状況 法人代表者及び管理者は、現場の状況をよく理解して、職員と一体となって協力してケアサービスの向上に取り組んでいる。	○			
40	○入居者の状態に応じた職員の確保 GHケアに適した資質を有する職員を採用するとともに、夜間を含め無理のない職員の勤務ローテーションを組むなど、入居者の状態や生活の流れを支援するための人員配置を確保している。	○			
41	○事故防止の対策 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合には、すべての職員が的確に対応できる体制を整えているとともに、再発防止対策を検討し、サービスの改善を図っている。		○		
42	○入居者家族からの意見や要望を引き出す工夫 入居者の家族が、気がかりなことや意見、要望などを気軽に伝えたり相談したりできるように、家族の面会時の声かけ、定期的な連絡等を積極的に行っている。		○		
43	○地域の人々との交流 入居者と地域の人々との交流のための取組みを行っている。		○		
44	○地域社会への貢献 痴呆の理解や関わり方についての相談への対応や教室の開催、研修生やボランティア等の受入れなど、グループホーム運営上培った知識や経験、技術などを地域社会に提供している。	○			
45	○ホーム全体の雰囲気 田園地帯の自然豊かな中に溶け込むように建つ、真新しい木造平屋の家2軒、本当に環境がよく、太陽も燦々と注ぎこみ、一歩足を入れると木の香りと入居者の温かいお迎えをいただき和らいた雰囲気を感じました。まだ開所して8ヶ月ほどではありますが、入居者と職員の明るい感じが、信頼関係をうまく築いていると思います。				
46	○総括的な評価 ホームを取り巻く環境やハード面の良さは言うに及ばず、理事長の社会福祉にかける思いはすばらしく、“世のため人のため”の理念のごとく邁進されており、地域への還元やボランティアを通して法人全体での取り組みなど目に見えるものでした。またグループホームのスタッフの方々の思いも理念をふまえ、入居者を“お客様”とお呼びし、尊敬の念や家族のような関わりを持ち介護にあたられているようでした。入居者の方々と昼食をご一緒に、色々お話をしたいと思っておりましたが、スペースの関係もありそれが出来ず残念でした。				
47	○優れている点 法人の代表者（理事長）の社会福祉に懸ける信念が高く、地域への還元の心を持ち、“法人全体としてできる事とは何か”を考え実行される行動力がありません。またグループホーム立ち上げも介護老人保健施設、ケアハウス、訪問看護、保育園等、同法人施設のあるなか農村地帯の地域性などを鑑み、より安心感のある施設として深い思いで、また自分も住みたいグループホームを設立されており、第三者評価や情報公開においても、「事業者からの情報では編りがあるのでは」と考えられ、福祉を底上げて欲しいと積極的でした。またマイ・リバー・サポートへ参加され、保育園児、ケアハウスの入居者や職員40名ほどで八代の流藻川の清掃と紫陽花を植え、くまけん第一号として2004年10月4日取り上げられるなどボランティアを通して地域への還元もありました。ホームの職員間での会議や法人全体での会議などを通じ、スムーズな意見交換も行われていました。				
48	○努力が望まれる点 ぜひ開かれたグループホームとして地域に根ざし、今以上に認知されるような積極的な活動を期待します。それには家族会の発足にご尽力いただき、密な関係を構築されるよう努力してみてください。そしてまた、ホームの新聞もご家族の理解を得て作成し近隣へ配布することで、地域性を考える時良い効果が生まれるのではないのでしょうか。各記録簿等もきちんと記入されていましたが、簡素化できるところは一つにまとめる等して、そればかりに時間を取られる事のないようにされるとさらにケアの充実が図れると思います。また、自己評価において改善点についてはほとんど記入がありませんでした。これを良い機会として、再度見直しをお願いしたいと思います。				